

秋田大学

国際交流センターニュース 第14号

Akita University International Exchange Center News

- ・学生の派遣、受入 …………… (1)
- ・協定、研究者関係 …………… (2)
- ・留学生関係行事 …………… (3)
- ・センターから …………… (4)

海外で学ぶ / 秋田大学で学ぶ

平成25年度秋田大学学生海外短期研修支援事業実施報告

秋田大学では、長期休みを利用して海外研修に参加する学生に対して、渡航費補助を行っています。今年度はフィリピン大学、フライブルク大学、ビクトリア大学の3大学へ計11名を派遣しました。

平成25年8月6日から30日まで、教育文化学部の6名の学生が南ドイツにあるフライブルクを訪ねました。フライブルク大学語学教育センターは毎年8月に留学生向けの1ヶ月のドイツ語短期研修を開いており、去年は50カ国からきた600名以上の留学生が参加しました。このプログラムでは、世界中からきた留学生が初級ドイツ語学から上級ドイツ語までのレベルでドイツ語を勉強でき、ドイツ語を母語とする教員が、少人数のクラスで集中ドイツ語講義をします。また、1日に2コマのドイツ語授業のほか、週に2回、日本人学生のために日本語でドイツの政治、歴史、文化などについての講義も行います。フライブルク市と「黒い森」の周辺を楽しみ、スイスとフランスへの遠足と週末旅行も実施します。参加した学生たちは、ドイツ語を勉強しながら他国の留学生に会う機会もあり、ドイツの環境を楽しみ、毎日忙しい日々を過ごしました。



(アスマン・シュテファニー)

Assmann, Stephanie—教育文化学部欧米文化講座

私はフィリピンのネグロス島を卒業論文の調査地域としているため、8月9日から8月24日までの16日間フィリピンで鉱山見学や調査を行いました。始めはフィリピン、ルソン島にあるSanto Tomas II 鉱山で、鉱山内部の見学、その鉱山で掘削されたボーリングコアの観察をしました。その後、ネグロス島で野外調査やその地域で掘削されたボーリングコアの観察を行いました。私は海外に行くのは今回が初めてで、英語力が足りず、自分の意思を伝えることも相手の伝えたいことを理解することも困難でした。しかし、現地の鉱山会社の人々に助けをもらいながら何とか生活することが出来ました。日本とは違うフィリピンの食文化などに触れることもでき、とても良い機会だったと思います。



(齋藤貴明: Saito Takaaki—工学資源学部地球資源学科4年次)

平成25年度第2回秋田大学海外留学説明会

海外留学を希望する学生に向けて、海外留学説明会を12月16日に開催しました。交換留学制度の説明の他、平山知実さん、田口萌香さん、中林侑大さんの3名の留学経験者による体験談発表を行い、留学情報を提供しました。

2012年3月より1年間、イタリアのカリアリ大学に留学をしました。カリアリ市は、我々日本人にとってはあまり馴染みの無い都市であり、このような地で一年を過ごすという貴重な体験ができ、大変幸せに思います。

同大学で学ぶことを通して、私が痛感した日本との相違点は、授業に参加する学生の姿勢の在り方です。日本人学生は「受動的」な聞き手としての態度が一般的ですが、留学先の学生は、積極的に発言し、「能動的」に授業に臨んでいました。

この積極的な態度の在り方が最大のカルチャーショックでした。日本においてもあらゆる場面でこのような態度を意識するようになったことが、留学先での学習内容そのもの以上の収穫です。



(田口萌香: Taguchi Moeka—教育文化学部国際言語文化課程4年次)

再び秋田大学で学ぶ

平成22年10月から1年間、AUEP（秋田大学国際交流体験プログラム）に参加した、ンジェリ・カゲマさん。昨年10月から再び秋田大学で、今度は「研究生」として、教育学研究科・英語教育専修で学んでいます。

My experience as an AUEP exchange student was very beneficial and eye opening to me. I got to meet and interact with students from different countries and cultures of the world, experience the rich beauty of Akita prefecture as well as other parts of Japan and also learn the Japanese language and culture first hand.

I decided to come back for graduate studies at Akita University due to the good quality of its educational programs. Right from the dedication of the professors to the facilities and the outdoor activities. In addition, the university has enjoyable activities for international students that make them feel at home.

I hope that in the future I can work towards strengthening the already good relations between Kenya and Japan. And I strongly feel that studying at Akita university will be instrumental in that.

(Njeri Kagema—Graduate School, Faculty of Education and Human studies)



モザンビーク エドゥアルド・モンドラーネ大学と協定締結

1月12日、モザンビークで最も歴史のある名門の国立大学、エドゥアルド・モンドラーネ大学との学術交流協定を、首都マプトの大統領府にて締結しました。

モザンビークは豊富な地下資源に恵まれ、最近15年以上、年7%前後の経済成長を続けており、治安も比較的良好のため本邦企業の事業展開も盛んです。特に天然ガスは2018年から年1000万トンのLNG生産を予定しており、これは100万キロワットの火力発電所10基を1年間稼働できる量であり、その半分を日本へ輸出する計画となっています。

今回の協定締結が通常と異なるのは、署名式が安倍首相率いる経済ミッションの公式イベントに含まれ、署名には安倍首相とゲブーザ大統領が立会うこととなっていることでした。そのため両国政府の要求に柔軟性と迅速性を持って対応することが求められ、深夜11時過ぎに運転手に電話するなど、ただならぬ緊迫感を満喫することとなりました。署名式を無事に終えて心から安堵しましたが、学術交流は端緒についたばかりで、まずは互いを理解することからのスタートであろう。愛媛大学もモザンビーク北部にあるルリオ大学との学術協定を締結しており、昨年10月から留学生を受け入れています。大学間の情報共有も視野に入れつつ今後の交流を検討していきたいです。

(倉科芳朗：Kurashina Yoshio—国際交流推進役)

マレーシア マラヤ大学と協定締結

11月20日、マレーシア・マラヤ大学のアブドル・ハミディ・シュコル副学長（学術研究・国際交流担当）が秋田大学を表敬訪問し、学術交流協定を締結しました。同大学とは今後、資源分野での共同研究、研究者・学生交流、シンポジウムの共同開催などを計画しております。

JASSO日本留学フェア（マレーシア）

平成25年12月14日、15日の両日、クアラルンプール（マレーシア）のPutra World Trade Centreで日本留学フェアが行われました。秋田大学からは国際交流センター副センター長 今井先生、国際課主査 鈴木氏、および電気電子工学科から山口と福田先生の計4名で参加いたしました。日本から参加した大学は27校ありましたが、大学名のあいさつお順でブースが並んでいたおかげで、本校のブースは会場入り口近くという位置にも恵まれ、2日間で約50名の学生が訪れてくれました。約10分～30分程度の説明の中では、奨学金、生活費、秋田の生活（寮やアパート）、気候、食文化、観光、などの情報を多く求められました。通訳を手伝ってくれた学生は、日本語、英語、マレー語、中国語の計4カ国語に堪能で、それぞれの言語で機敏に対応していただきました。一人でも多くの学生が秋田大学に留学してくれることを期待しています。



(山口留美子：Yamaguchi Rumiko—大学院工学資源学専攻電気電子工学専攻)

王立ブータン大学研究者受入

2月18日より3月1日まで王立ブータン大学健康科学院の教員2名（看護学科長のManikara Mokutan氏と助産教育担当のRenuka Mothey氏）が来日し保健学科にて研修を行いました。1週目は、日本の看護システム、アディクションやDV、秋田の文化などの講義を看護学専攻教員が担当しました。また、本学では「ブータン王国の現状と王立ブータン大学の役割」と題した講演会、日本赤十字秋田看護大学では「国際交流シンポジウム」を行い、ブータンの医療制度やGNH(Gross National Happiness)について参加者の理解が深まりました。2週目は大学病院（主に産婦人科病棟）で3日間、横浜の助産院で1日半の研修を行い、ブータン王国の看護の改善点を考える良い機会になったと思います。忙しい日程の中で、お茶会の体験、乳頭温泉そして「なまはげ館」の観光なども行い、充実した2週間であったと思います。



(篠原ひとみ：Shinohara Hitomi—大学院医学系研究科保健学専攻母子看護学講座)

第4回秋田大学研究者海外派遣事業報告会

平成25年度に研究者海外派遣事業により海外に派遣した若手研究者の報告会を、1月23日に行いました。

Emma Morita—教育文化学部国際コミュニケーション講座

アルメリア大学（スペイン）に滞在中は、資料収集とデータ収集後の分析、そして並行して論文の執筆というように研究活動に専念することができました。この報告会では医学部と工学資源学部の方々との意見交換ができ、人文系だけではなく自然科学系の方々も同様に、派遣先の大学では教員の仕事の範囲が明確で、そして研究のための時間が保証されているという報告が印象的でした。この派遣制度を通して他国の大学の現状を知ること、日本の大学の現状を再認識し、その改善に向けて貢献することが、この制度の重要な一つの意義だと思えます。

高崎康志：Takasaki Yasushi—国際資源学教育研究センター

秋田大学研究者海外派遣支援事業により、平成25年3月19日から9月21日までアメリカのモンタナテックにて研究活動を行ってきました。研究課題名は「銅鉱石の電気化学的な研究」で、各種添加剤添加時の電位—電流曲線の測定を行いその特性を評価しました。指導に当たって下

さったのはCourtney教授で、研究だけでなく普段の生活を含め様々な便宜を図って下さいました。これも以前から良好な協力関係を築いて下さった先生方のおかげであると思えます。今後とも両校の関係がますます発展するように努力して参りたいと思えます。

石川慶紀：Ishikawa Yoshinori—附属病院整形外科

専門である脊椎外科、特に頸椎手術の勉強のため、そのスペシャリスト、スウェーデン、ウプサラ大学、オレルドクラエス教授のもとに、半年間留学いたしました。新天地ヨーロッパでの生活は毎日が刺激的で、普段の何気ない事すら新鮮に感じました。手術手技も世界トップレベルですが、人間的にも非常に紳士な教授は、家族そろっての留学を親身になり面倒みて下さいました。日本だけでは気が付かない、学べない事を沢山経験でき、一生の財産となりました。今後は、秋田でも世界トップレベルの治療ができるように心がけてゆきたいです。

留学生イベント～秋田の「冬」～

留学生卒業記念パーティー

1月29日開催の卒業記念パーティーに、33名の修了・卒業生が参加しました。

特別聴講学生代表チェ・ユジンさんの挨拶より、留学生のみなさんが日本語・日本文化の習得という目標を強く胸に抱き来秋し、大学生活、地域社会の方々と交流を通しその習得、理解を深め、自国では決して得られない有意義な経験を得たことを、窺い知ることが出来ました。

修了・卒業学生の今後の更なる活躍を心より期待しています。

(高橋幸江: Takahashi Yukie—国際課留学生交流・支援担当)

～修了する留学生から～

韓国から参りましたチェユジンです。

私たちが4月に秋田に来たのが昨日のように感じますが、今月で留学が終わることになってすごく寂しいです。しかし、秋田に来て優しい方々に出会い、韓国ではできない貴重な経験をさせていただき、いい思い出をたくさん作ることができました。もちろん国から離れて大変なこともたくさんありましたが、帰る時はいい思い出だけを持って帰りしたいと思います。そして留学生卒業記念パーティーで皆を集めてお祝いして無事に留学を終えたことができたのは皆様のおかげです。秋田での思い出、またこの感謝の気持ちは国へ帰っても一生忘れずにもっと頑張りたいと思います。1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

(チェ・ユジン—教育文化学部特別聴講学生)



日本のもちつき

年末恒例の餅つき大会を今年も実施しました。

日本伝統文化に関心を持つ約60名の留学生が集い、日頃お世話になっている近隣町内会の方々と交流しました。学生達は初めて見る臼や杵に興味深そうにながめ、中には早くつきたいと急くあまり、まだ米粒がつぶれていない状態で杵を振りかざそうとして町内会の方に止められる場面も。ふっくらとつき上がった餅は、お雑煮や、餡を一口大に丸めて大福にいただきました。留学生と町内会の方々がお互い無事に一年を過ごせたことに感謝し、また翌年の再会を約束する場となっています。



(庄子歩: Shoji Ayumi—国際課留学生交流・支援担当)

秋田の冬の行事体験旅行「横手かまくら」

平成26年2月15日に、秋田大学の留学生9名を引率して横手のふるさと村とかまくら会場へ行ってきました。ふるさと村では七宝焼の体験をし、夜はかまくら会場でかまくら祭りを満喫しました。出来上がった手作りの七宝焼の作品を見た瞬間のみなさんの感動と、かまくらに入って甘酒を飲んだり、豆餅を食べたりするときの笑顔は非常に印象的なものでした。今回の活動は異なる国籍の留学生にとってお互いの交流と日本文化を体験する貴重な機会でした。特に間もなく卒業して帰国する留学生にとっては、日本を離れる前の良い思い出になったのではないかと思います。(楊帆: Yang Fan—国際交流センター)



留学生スキー合宿

春休みに学校を離れて、私はおよそ20人の外国人留学生と田沢湖スキー場でスキー合宿研修会に参加しました。私を含め周りはほぼ初心者であるなか、皆さん果敢にスキーに挑戦していました。最初は苦戦の連続でしたが、コツを掴んでからは斜面を上手く滑れるようになり、留学生たちとスキーの楽しさを共有できました。初日の夜に乳頭ロッジで過ごした、晩御飯を食べながらスキーの初体験を話し合った楽しい時間は、忘れられません。

僅か2日間ではありましたが、数日後に母国に帰国する留学生たちを含め、最高の思い出を作ることができました。

(トン タット ロイー工学資源学部情報工学科4年次)



ぼんでん祭り

Bonden Festival has been one of my first Japanese festival experience. It was so bright in colors, funny and pretty enriching for me. Funny by the fact that we were struggling with the shrine keepers to enter it. Enriching because I've learnt one important part of Japanese culture. I've even got this thing (see enclosed the picture) which I've been told to be sign of luck. Yes it's true because I had the chance of experimenting Japanese rich culture.



(Belemnygre, Georgette—教員研修留学生)

地域交流事業

秋田地域留学生等交流推進会議

2013年度秋田地域留学生等交流推進会議が12月4日、初めて秋田大学を会場で開催されました。今年度の報告と来年度の会議運営についての話し合いの後、秋田大学生協にて懇親会を行い、県内各高専・大学からの参加学生全員によるスピーチや、推進会議構成員のみなさんと食事をとりながらの交流を楽しみました。

附属中学校から職場体験受入

附属中学校の1年生3名が職場体験に来ました。12月ということもあり、クリスマスツリーの飾りつけやクリスマスカードの送付作業等を体験し、昼食時は他部署で活動していた生徒も交じり、留学生とのランチを楽しみました。ランチ中は、留学生の母国について積極的に質問する姿や、留学生へ折り紙を教える姿が垣間見られました。



退任のあいさつ

牲川波都季 准教授：Segawa Hazuki

2014年3月31日をもって秋田大学国際交流センターを退職し、関西学院大学総合政策学部に異動することになりました。国際交流のあり方が再構築されようとする時期の異動で後任の方への負担を思うと心苦しいのですが、この5年10か月をまとめると「あ一面白かった」の一言になります。教職員や留学生のみなさんと本学の国際交流をさらに広げ深めようとしてきたプロセスは、私にとって自身の言語観——瞬一瞬の言語運用が世界に変化をもたらす——を身を以て試してみるプロセスでもありました。そして学外では、特に仙北市西木町の農家のみなさんから大きな学びを得ました。言語表現の可能性を再認するとともに、それを阻むものの姿も垣間見られた秋田での生活。この面白い経験を異動先でも生かしていきます。



後段左から二番目

楊帆 助教：Yang Fan

秋田大学での一年間はあっという間のような短い期間でしたが、自分の心の中に残ったものは大きいです。蘭州出身の私は日本で十数年生活していましたが、出身地を言ってよくわかってもらったのはこの秋田でした。秋田大学のみなさんに暖かく迎えていただいて、心から感謝申し上げます。この一年間の間、優秀な各国の留学生と出会い、貴重な思い出をたくさん作ることができました。さまざまな日本語、英語の講義を担当することによって、自分は教育面でさらに成長したと思います。また、学生たちの成果物をデータとして分析し、研究成果の発表もできました。さらに、放課後よく学生たちと外へ出かけ、この秋田の良いところを満喫していました。自分にとっては実に充実した一年間です。これからもこの一年間の経験を財産にして、いつまでも秋田の良さを忘れずに前向きに歩いていきたいと思っています。



専任教員からひとこと

今年、ココ出版から『日本語教育における評価と「実践研究」—対話的アセスメント：価値の衝突と共有のプロセス—』を出版することになりました。本書は、日本語教育における評価研究と「実践研究」の変遷を批判的に考察し、評価の理論と実践を実践形成過程の検証により明らかにしたものです。

日本語教育学は、日本語のみならず、人間の存在をも思考すべき学問であり、人間の生に還元しうる知を目指していく必要があると考えています。自然科学の方法にのっとった学知の蓄積とは別に、人間としての生の充実とそれを支えるための言葉の創造という日本語教育的な視座が重要になります。本書は、実践に参加する教師と学習者の生の営みを取り上げ、その営みに固有の意味を見出しています。その意味でも、日本語教育学研究における方法論的可能性を示唆したのではないかと考えています。

(市嶋典子：Ichishima Noriko—国際交流センター)

■国際交流協定校情報

大学間協定 (合計26ヶ国・地域：50大学等) 部局間協定 (合計8ヶ国・地域：15学部等)

(2014年1月12日現在)

■秋田大学の留学生数

合計208名 学部生：101名 大学院生：43名 交換留学生・研究生等：64名

(2014年2月1日現在)